

《 資料紹介 》

共和暦をめぐる

Five digressions related to the Republican Calendar

福島 知己

FUKUSHIMA Tomomi

一橋大学社会科学古典資料センターでは、昨年度 2011 年度から、学術振興会科学研究費の助成を受けて、所蔵資料のうち 1800 年までに刊行されたすべての資料を対象にいくつかの書誌学的事項を統計的に調査する研究に取り組んでいる（「西洋社会科学古典資料の書誌学的調査に基づく印刷地推定法に関する実証的研究」、基盤研究（B）、平成 23 年度～25 年度、課題番号：23330066、研究代表者：山崎耕一）。その成果は調査完了後に公表する予定であるが、調査の過程で、大革命下のフランスで用いられた共和暦に関連する資料をまとめて見る機会があったので、センター所蔵資料の紹介を兼ねて、研究の余滴として、共和暦にまつわる話題を簡単に提供したい。実際のところ、以下で紹介するのは専門的な研究者からはいずれも旧知に属する事柄であり、新事実を明らかにするものではないが、調査を実際に担当していただいている調査員の方たちからも質問をいくつか受けたので、ここで要約的にまとめておくことも無駄ではないと思う（ちなみに圧倒的に多かった質問は判型の確定についてであり、その他の質問は、厳密に数えたわけではないが、引用符やプレス・フィギュアに関するものが多かったようだ）。

一、

最初に共和暦について簡単に振り返る<sup>1</sup>。論者によって強調の仕方は違うが、共和暦は、メートル法の制定と並んで、革命の初期を支配した非キリスト教的で合理主義的な考え方の産物であり、圧制と偏見の象徴とみなされた旧来の秩序を刷新する試みであったと評価されている。その導入にはいくつかの段階があった。

---

<sup>1</sup> 共和暦の概要については以下を参照。George Villain, « Etude sur le calendrier républicain », *La Révolution française, revue d'histoire moderne et contemporaine*, n<sup>os</sup>. 7-8, 1884-5 ; George Gordon Andrews, « Making the Revolutionary Calendar », *The American historical review*, 36 (3), 1931 [間崎万理訳「『共和暦』の成立について」、慶應大学『史学』第 12 卷第 3 号、1933 年] ; Bronislaw Baczko, *Lumières de l'utopie*, Payot, 1978, pp. 211-232 [森田伸子訳『革命とユートピア 社会的な夢の歴史』新曜社、1990 年] ; id., « Le calendrier républicain : Décréter l'éternité », in Pierre Nora (sous la direction de), *Les lieux de la mémoire*, Gallimard, t. 1, 1984 ; Mona Ozouf, « Calendrier », in Furet et Ozouf (éd.), *Dictionnaire critique de la Révolution française*, Flammarion, t. 1, c1992 [富茂樹訳「共和暦」、『フランス革命事典』みすず書房、第 4 卷、1999 年] ; 最新の包括的な研究は Matthew Shaw, *Time and the French Revolution. The Republican Calendar, 1789-Year XIV*, Royal Historical Society, 2011 と Sanja Perovic, *The calendar in revolutionary France. Perceptions of time in literature, culture, politics*, Cambridge University Press, 2012 である。

1792年9月21日にフランス王制が廃止されるとすぐ共和暦の導入が議論された。翌日、国民公会のデクレにより、すべての公文書に「フランス共和国第1年 (an 1<sup>er</sup> de la République Française)」と記載するよう定められた【図版1】。ただしこの時点では、1792年＝フランス共和国第1年であって、後年とちがって1年のはじまりをグレゴリオ暦と異なるやり方は採用していない。

これをうけて公文書に共和国紀元が表示されるようになった。官報的性格をもつフランスの新聞『モニトゥール』も9月24日から「フランス共和国第1年」と表示している。共和国第1年の表記は公文書に限られるわけではなく、例えばマラーは自身の著作の少なくとも1点で共和国紀元を用いている。メンガー文庫に収められている Marat, J. P., *Les chaines de l'esclavage* という資料の出版事項には、Paris, De l'imprimerie de Marat, l'an premier de la République と記されている【図版6】。

センター所蔵資料から判断する限りで、共和国第1年と記載された公文書はこの年号だけを排他的に用いるわけではなく、グレゴリオ暦も併記されていることが多い。マラーの著作のように共和暦だけを表示している資料は例外的とまではいかないまでも少数派といえるかもしれない。

ところで共和暦制定のゆえんは共和国設立を記念することにあつたから、年だけではなく日付そのものにも意味をもたせようとする議論が当初からあつた。くわえて言えば、グレゴリオ暦の1月1日が年のはじまりであるのは旧弊でしかなく、非合理であるとも考えられた。こうして共和制が宣言された9月22日を年のはじまりとしてはどうかという主張がうまれた。しかし、逆にいって旧弊は深く根付いた慣習であり、他国で採用されている年度を一国が独自に変えたのでは通商その他の妨げにもなるので、あえて変更するまでもないとする反対論も強かった。共和暦制定当初に先送りされていたこの論争は1793年1月2日に最初の解決をみた。この日、共和暦第2年を1793年1月1日から開始するという国民公会のデクレが決議された【図版2】。

しかしそれは一時的な解決に過ぎなかった。前年12月21日から本格的な共和暦制定の企画が公教育委員会でジルベール・ロム (Gilbert Romme, 1750-1795) を中心に議論されていたが、およそ1年弱の議論を経て、9月22日を年のはじまりとする共和暦の制定が提案されたからである。ロムによれば9月22日は共和国成立の日であるばかりでなく秋分の日でもあるから、自然と歴史の両方に照らして年のはじまりとするにふさわしい。ロムの提案は大筋で承認され、1793年10月5日に共和暦制定のデクレが議決された【図版3】。ジャコバン派が9月17日に反革命嫌疑者を無条件に逮捕できる法律の採決に成功し、恐怖政治を実現してからおよそ3週間後のことだった。

このときに採択された共和暦では、1年を12か月、1月は一律30日とし、月をそれぞれ10日からなる3つの旬 *décade* に分けた（つまり7日からなる週が廃止された）。年末にどの月にも属さない5日を割り振り、各々の月を第1月、第2月等々、また各々の日を第1日、第2日等々の基数で呼ぶことになっていた（さらにいえば、時分秒における12進法を廃止し、10進法による新しい計時法が導入された【図版4】）。また、共和暦第2年を1793年1月1日に開始するとしていたデクレを撤回し、第1年を1792年9月22日から1793年9月21日までとし、第2年を1793年9月22日から始まるものとした。さらに公文書におけるグレゴリオ暦の使用が禁じられた。

このうち月と日の呼び方については、共和暦2年フリメール第4日（1793年11月24日）

のデクレで、月については基数ではなく Vendémiaire, Brumaire, Frimaire, Nivôse, Pluviôse, Ventôse, Germinal, Floréal, Prairial, Messidor, Thermidor, Fructidor、日については Primidi, Duodi, Tridi, ... といった独特の用語が採用されるようになるなど、いくつかの変更が加えられた。その後も小さな変更があるが、共和暦の大枠はこのとき完成し、やがて共和暦 13 年フリュクティドール 22 日（1805 年 9 月 9 日）の Senatus-consulte で、次のニヴォーズ 11 日、すなわち 1806 年 1 月 1 日からグレゴリオ暦に戻すことが決定されるまで用いられた【図版 5】。

そのときまで公的には共和暦はフランスの唯一の暦であり、総裁政府期に市民生活の中に共和暦を根付かせようとする努力も行われることになるが、それでも旧来の暦が完全に忘れ去られたわけではなく、いわばフランス国民は二重の時間性を生きたことになる。

## 二、

グレゴリオ暦に代わる暦の提案は国民公会の議論を待って開始されたわけではなく、先行する試みがいくつもあった。しばしば指摘されるように、その初期の例のひとつは革命以前の 1788 年にシルヴァン・マレシャルが匿名で出版した暦書 *Almanach des honnêtes gens* に見られる<sup>2</sup>【図版 7、8】。マレシャルの人間関係やマレシャル自身その後革命祭典の企画に深く係わることからいっても注目されるべきものである。

ピエール＝シルヴァン・マレシャル (Pierre-Sylvain Maréchal, 1750-1803) はパリの生まれ<sup>3</sup>。法律家を志すが挫折、当時流行していた田園詩を出版して若干の成功を収めた。コレージュ・マザランに司書補として採用されたが、1784 年に発表したキリスト教諷刺の詩を咎められて職を追われ、文筆稼業に入った。革命勃発後に新聞『パリの諸革命 (Les Révolutions de Paris)』に執筆し、後には革命祭典の準備やパブーフの『平等者の宣言』の起草にかかわった。

*Almanach des honnêtes gens* は当時様々な仕方で出版されていた農事暦を換骨奪胎したもので、暦書の各々の日付に記されているキリスト教の聖人名に代えて様々な偉人の名前が記載されている。偉人の名前はその日に誕生したか没した人からとられており、アンリ 4 世、ルイ 9 世のような王たち、モーセやイエス・キリストのような宗教指導者まで多彩な人々が含まれる。知識人についても、ボワロー、ヴォルテールをはじめとして、啓蒙、非啓蒙、無神論、神学者等様々な立場の人々が記載されている。日によっては、ルソーの誕生日でディオゲネスの没した日である 6 月 28 日やイエス・キリストとニュートンの誕生日である 12 月 25 日のように同じ日に 2 人が記載されていることもあるし、ルソーやイエス・キリストのように生没の両方の日付に記載がある人もいる。また 2 月 25 日の「ナントの勅令」や 3 月 15 日の「ブルータスのカエサル暗殺」のように個人の生没の日付以外の要素が含まれる場合もわずかながらある。

マレシャルの暦書については、1 年のはじまりを春の開始である 3 月としている点、1 月から 8 月にそれぞれ undécembre、duodécembre、princeps、alter、ter、quartile、quintile、

<sup>2</sup> Cf. George Villain, op. cit., no. 7, 1884. ただしドマンジェによれば同様の非キリスト教的な暦作成の試みが Gency, Vasselier, Riboud によって行われている。Maurice Dommanget, *Sylvain Maréchal l'égalitaire « l'homme sans Dieu », sa vie - son œuvre (1750-1803)*, Spartacus René Lefevre, c1950, p. 121 sqq.

<sup>3</sup> 以下伝記的事項については、Biographie universelle, ancienne et moderne, ... , nouvelle édition および Dictionnaire historique et biographique de la Révolution et de l'Empire ... の該当項目を参照。

sextile という別称を提案している点、一月の10日ごとを旬 *décade* に区切り、旬日にあてはまらない月末の日に道徳的な祭典を挙行することを奨めている点なども注目される。

*Almanach des honnêtes gens* はもともと4折版の大きさの一枚ものとして刷られたものようだが<sup>4</sup>、1788年1月7日にパリの高等法院で焚書を命じられ、マレシャル自身も4か月にわたって収監された。興味深いことにセンター所蔵の本書は全体が24ページからなる12折版の冊子になっており、16ページ以降に当の高等法院の決定が印刷されている。決定をうけて再刊されたのである。焚書を命じられたことはかえって宣伝効果を高めるものだったかもしれない。

副題に *L'an du premier regne [sic] de la raison, pour la présente année* とある。この由来がはっきりしない。ショーメットの理性教や理性の祭典を連想させもする。ショーメットは1790年にマレシャルやその後共和暦の制定に深くかかわるファールブル・デグランティヌと共に前述の『パリの諸革命』の編集にかかわり、共和暦2年ヴァンデミエール16日にはマレシャルの暦の採用を働きかけもしたほどだった<sup>5</sup>。

実をいうと、マレシャルはすでに1781年に匿名で出版した *Fragmens d'un poeme moral sur Dieu* の標題紙上で「*L'An Premier du regne de la Raison*」という表示を採用している（ただし「1781」というグレゴリオ暦の表示も併記されている）【図版9】。出版地表示は *A Atheopolis* となっているが、これは架空の地名で、無神論者を意味する語 *athée* からとったものだろう。

ただこうなってくると、*an de la Raison* はいつを紀元とするのか、はたして紀年法なのかははっきりしないようにも見える。マレシャルのパンフレット *Dieu et les prêtres, fragments d'un poème philosophique* には「*l'an II de la République Française*」という出版年表記があるから、1793年か1794年に出版されたもののだが、ここにも「*l'an premier de la Raison*」という表示が併記されている。Sanja Perovic はこの点にキリスト教的な聖なる時間性と世俗の時間性を区別しない「永遠の現在という時間」を認める解釈を提出している<sup>6</sup>。

またマレシャルの暦がその後公式に制定される共和暦の先駆であることが事実だとしても、この暦そのものの意図がどこにあるかは議論の余地がある。マレシャルは註記中で「だれを偉人を選ぶかは、小生の例にならって、選ぶにあたいすると思われるどんな人と入れ替えても構わない。また自分の家族を範とするのもよい。小生の場合、10月21日を自分の家族とした」と述べている。つまりマレシャルの父の誕生日である。そのうえ8月15日が何の説明もなく空欄になっているが、この日はマレシャル本人の誕生日なのである。これらの目配せの意図を詳細に論じる余裕はないが、ある種の戯作の要素を認める解釈もあるようである<sup>7</sup>。

---

<sup>4</sup> フランス国立図書館のサイト Gallica に電子画像が収録されている。http://visualiseur.bnf.fr/CadresFenetre?O=IFN-6950353

<sup>5</sup> Cf. Robinet et al., *Dictionnaire historique et biographique de la révolution et de l'empire ...*, 2 vol., [1899].

<sup>6</sup> Perovic, op. cit., p. 45.

<sup>7</sup> この点は以下を参照。Cf. Véronique Sarrazin-Cani, « Formes et usages du calendrier dans les almanachs parisiens au XVIII<sup>e</sup> siècle », *Bibliothèque de l'école des chartes*, tome 157, livraison 2, 1999, p. 445. もうひとつの解釈は Sanja Perovic によるもので、この点にマレシャルの時間観念の独自性を見ている。「マレシャルの卓見は、自伝的記憶がつねに『歴史的』かつ『個人的』なものであって、単に『主観的』なわけでは決してないという理解にある」(Perovic, op. cit., p. 50)。

### 三、

革命に関する「公式」の暦において紀元とみなされたのは王政が廃止され共和制が成立した1793年だった。しかし、革命が勃発したときなかば自然発生的に行われた最初の試みは、1789年を「自由の第1年(an I de la liberté)」と観念することだった。プロニスラフ・バチコに従って事の次第を追ってみると、以下のものである。「[1789年]7月14日の翌日から、歴史的断絶という胸躍る生きられた経験は、単なる出来事ではなく、まさに新しい時代の到来に立ち会っているという感情そして希望として表現された。すなわち自由の時代である。新聞や政治パンフレットばかりか、私信においても、こんなふうにして1789年という年を自由の第1年と呼ぶ用法が広まり、同様にそれ以後の年についてもそれぞれ自由の第2年、第3年などと呼ぶようになった(ただし旧来の暦と換算することは忘れられなかった)。1792年になってから、貨幣やアッシニヤ紙幣にどのように記載するかという実際の問題が生じた時点になって、多少とも広まったこの用法……が立法議会にとって厄介な法的問題として立ち現れることになった」<sup>8</sup>。つまり1年のはじまりを7月14日とするか、旧来どおり1月1日とするかが真剣に議論されたわけだが、最終的には1792年1月2日、公文書で「自由の年」という紀元を採用し、自由の第4年のはじまる日を1792年1月1日とすることが決議された。

しかし1792年初頭に決まった紀年法がそのまま定着することはなかった。1792年8月半ばから翌月後半まで印刷された公文書において、「自由の第4年、平等の第1年(an 4<sup>e</sup> de la Liberté, 1<sup>er</sup> de l'Egalité)」という別種の表示が用いられた。アンドリュースによれば、平等紀元は1792年8月10日の王権停止をうけて、8月13日にパリ市コミューンが行った決議に端を発する。そしてその前後から続いた混乱の中で祖国防衛の意識が前面に出るにつれて平等の理念が否定されないまでもしだいに強調されなくなり、自由紀元も含めて自然と使われなくなったのだという<sup>9</sup>。もっともこの説には、自由紀元、平等紀元の衰退を単純に説明しすぎているといった批判もできるかもしれない。いずれにせよ、1792年9月22日から少なくとも公文書では共和暦が用いられるようになった。

共和暦導入の根拠となった国民公会の1792年9月22日のデクレ(前述)に、自由紀元は最後の残照を残している。そこにはこう書かれている。「ある議員が以後法令には『フランス共和国第1年』と日付を記載するよう要求した。別の議員はそれに『自由の第4年』という常用の紀年法を加えてはどうかと提案した。この修正案は撤回された」<sup>10</sup>。

自由紀元が出版年表記に採用された例はセンター所蔵資料5点から確認できる<sup>11</sup>。そのうちの3点はGarnéryという書籍販売業者によるものであり、残りの2点はCercle social印刷所

<sup>8</sup> Baczko, « Le calendrier républicain », op. cit.

<sup>9</sup> Andrews, op. cit., pp. 520-1 [訳、163-164頁]

<sup>10</sup> Décrets de la Convention nationale, du 22 septembre 1792, l'an 1<sup>er</sup> de la République française : 1° date des actes publics ; 2° changement du sceau des archives de la République française, & de tous les corps administratifs ; 3° suppression des rentes apanagères ; 4° incomptabilité des fonctions de représentant de la nation, & de toute autre fonction publique, A Alençon : De l'Imprimerie de Malassis fils du jeune ... , [1792]. [図版1]

<sup>11</sup> なお、センター所蔵資料の全点調査がまだ完了していないため、5点というのは仮の調査結果にすぎないことをお断りしておく。

によるものである【図版 10～14】。

Cercle social 印刷所はニコラ・ボヌヴィル (Nicolas Bonneville, 1760-1828) と Fauchet 神父によって 1790 年に創業した。マレシャルが作成したもうひとつの暦 Almanach des républicains を 1793 年に印刷したのもこの印刷所である。

センター所蔵資料のうち、「自由の第 4 年、平等の第 1 年 (an 4<sup>e</sup> de la Liberté, 1<sup>er</sup> de l'Égalité) という表示が行われている最も早い公文書は 1792 年 8 月 25 日付の議事録であり、最も遅いのは同年 9 月 21 日付の文書である【図版 15～17】。

また、「平等と共和国の第 1 年 (an 1<sup>er</sup> de l'égalité & de la République)」という表示のある資料も見つかっている【図版 18】。

公文書においては、自由紀元や平等紀元は共和暦と違ってグレゴリオ暦にとって代わろうとするものではなく、多くの場合両者が併記されている。また 1 月 1 日を新しい年のはじまりとすることには異論を唱えていない。一方で、公文書以外を見ると標題紙からグレゴリオ暦の表示が取り払われている例があり、一律に理解してはならないことがわかる。いずれにせよ自由紀元や平等紀元は、革命がまだそう名づけられる以前に、そのとき起こった断絶を生きられる時間秩序に刻印しようとして行われた最初の、自発的な試みという意味で、独自の重要性をもっている。

#### 四、

モナ・オゾーフは共和暦について、「新しい暦は、一つの制度となる以前にまず一つの実践であった」<sup>12</sup>と書いている。紀年法への注目は国民公会の議論を待たずはじまっていたし、そこには制度の受容や自発性をめぐる複雑な問題が隠されているようである。また、いったん制度化されてからも多様な反応がみられた。擁護論者でさえけっして一枚岩ではなかった（バチコは総裁政府期には革命の成果を守り通すといういわば保守的な態度の持ち主にとって共和暦の維持が象徴的意味をもったとしている）。

一方、共和暦成立以後も、それに満足せず、別の暦を提案する試みも行われた。その興味深い例がアナカルシス・クローツの著書 *La république universelle, ou Adresse aux tyrannicides* に見られる【図版 19】。同書の出版年表示らしき部分には *l'an quatre de la Rédemption* と記されている。

アナカルシス・クローツ (Baron Jean-Baptiste Cloots, dit Anacharsis, 1755-1794) はプロシアの男爵家に生まれた。幼時からフランス語による教育を受け、父の死後各地に遊学するが、やがてパリに定住。1780 年に最初の著書 *La certitude des preuves du mahométisme* を公刊したのを皮切りに数々の著作を著す。フランス革命に熱狂し、新聞『パリ時評 (Chronique de Paris)』で健筆を振るった。1792 年 8 月 26 日にフランス市民権を取得。国民公会議員として活躍した。単なるフランス愛好を超えて世界共和国の実現をめざすクローツの主張はしばしば過激で、デムーランやロバスピエールから疎まれ、最期は外国のスパイの濡れ衣を着せられ

---

<sup>12</sup> Ozouf, op. cit., p. 93. [訳、80 頁]

ロチンにかけられた<sup>13</sup>。

Rédemption というのは宗教的には「贖罪」、法的には「(権利の) 回復」を意味し、また戦争捕虜の釈放、特に異教徒に捕らわれたキリスト教徒を釈放させることも意味する。実のところ、an de la Rédemption が何を意味するものかはっきりしない。クローツはどの著作の標題紙でも体系的に l'an de la Rédemption という暦を用いているわけではなく、むしろ西暦と共和暦を併記している例が多い。しかし、1791年の著作 *L'orateur du genre-humain, ou, Dépêche du Prussien Cloots, au Prussien Hertzberg* ではじめて l'an de la Rédemption の紀元を用いて、西暦と併記して l'an deux de la Rédemption という紀年法で記載している。従って1790年が紀元年と考えられる。

ただ広く用いられたグレゴリオ暦や自由紀元、共和暦を用いず独自の暦法を用いるのはクローツの反抗の表れということとはできるかもしれない。実際、この手の皮肉な反骨心をクローツが見せるのははじめてではない。クローツは1780年に最初の著書 *La certitude des preuves du mahométisme, ou, Réfutation de l'examen critique des apologistes de la religion mahométane* を Ali-Gier-Ber なる偽名を用いて出版しているが、この偽名はカトリックの護教論者 Nicolas Bergier の名のアナグラムであり、題名そのものがベルジエの *La certitude des preuves du christianisme* (1768) のもじりなのである<sup>14</sup>。クローツの著作はどれもひどく脱線が多く博識をひけらかすかに見えるほどだが、既存の主張と一線を画すことでは一貫しており、l'an de la Rédemption という表現にこだわる理由もそのあたりにありそうである。

## 五、

前述のように共和暦は1805年に潰えたのだが、それ以降のかすかな反響という意味で、最後にオーギュスト・コントが1849年に公表した実証主義者の暦 (calendrier positiviste) を紹介して結びとしたい【図版20、21】。

この暦では年のはじまりはグレゴリオ暦の1月1日を維持し、週を7日としている。コントによれば、週概念は「すべての白色人種と、大部分の黄色人種にはるか以前から用いられている」からである<sup>15</sup>。しかしグレゴリオ暦と異なり、月ごとの日数の違いをなくして1月をきつ

---

<sup>13</sup> 以下伝記的事項については、*Biographie universelle, ancienne et moderne, ...*, nouvelle édition, Dictionnaire de biographie française sous la direction de Roman d'Amat および *Dictionnaire historique et bibliographique de la Révolution et de l'Empire ...* の該当項目による。クローツについてのまとまった研究は George Avenel, *Anacharsis Cloots. L'orateur du genre humain*, Eds. Champ Libre, c1976 および Roland Mortier, *Anacharsis Cloots ou l'utopie foudroyée*, Stock, c1995 である。日本では柳原邦光氏による一連の研究がある。

<sup>14</sup> Cf. Mortier, op. cit., p. 42 sq.

<sup>15</sup> Auguste Comte, *Calendrier positiviste, ou Système général de commémoration publique, destiné surtout à la transition finale de la grande République occidentale composée des cinq populations avancées, française, italienne, germanique, britannique, et espagnole, toujours solidaires depuis Charlemagne*, publié au nom de la Société Positiviste, Paris, A la librairie scientifique-industrielle de L. Mathias, avril 1849. 以下引用は同書。一般には、実証主義者の暦は、コントの人類教構想の一環として理解されている。

<sup>16</sup> *Ibid.*, p. 11 note.

かり4週間とした。結果として1年は13か月からなる。7(日)×4(週)×13(か月)=364日なので1日(あるいは閏年なら2日)余るが、その日は特別な記念日である。

実証主義者の暦の目的は、毎日をコモレーション(記念)の機会とし、過去をふりかえるよすがとすることである。だから各々の月にはMoïse, Homère, Aristote, Archimède, César, Saint Paul, Charlemagne, Dante, Gutenberg, Shakespeare, Descartes, Frédéric et Bichatといった偉人の名前がつけられ、各々の日にも(キリスト教の聖人名のかわりに)偉人の名前が冠せられている。さらに各曜日も、月曜は「結婚」、火曜は「親子愛」というように、ひとつずつ徳目と結び付けられている。

ところでコントの世界史認識によれば、西洋の近代史のはじまりは14世紀まで遡ることができる。しかし、現代というものを考えるときにはそこまで遡る必要はない。「年のはじまりにはなんの変更を加える必要もないことを言えば、この歴史的な紀元の採用に二の足を踏むこともないだろう。あれらの多大な動乱はこの月のこの日という日付をもっていない。ただ未だに使われている千桁の年号からつねに1788を引けばよいだけである」。すなわちコントにとって1789年が紀元なのである。「この数[1788]は4の倍数だから、年をこのように変更したところで、閏年につきものの今日の主要な慣行は少しも変わらない」<sup>16</sup>。

1789年の聖化がコントにおいて日付の抽象化によって実現されたのである。

## 図版

1. 共和暦制定のデクレ。回覧のため各地で印刷されたもの。Décrets de la Convention nationale, du 22 septembre 1792, l'an 1.<sup>er</sup> de la République française : 1° date des actes publics ; 2° changement du sceau des archives de la République française, & de tous les coprs [sic] administratifs ; 3° suppression des rentes apanagères ; 4° incomptabilité des fonctions de représentant de la nation, & de toute autre fonction publique, A Alençon, De l'Imprimerie de Malassis fils du jeune ... , 1792, 4 p., 27 cm. 【Franklin 15891】
2. 共和暦2年のはじまりを定めたデクレ。Décret de la Convention nationale, du 2 janvier 1793, l'an 2.<sup>e</sup> de la République française, relatif à l'ère de la République, A Paris, De l'Imprimerie nationale exécutive du Louvre, 1793, 2, [2] p., 26 cm. 【Franklin 15891】
3. 9月22日を年のはじまりとすることを定めたデクレ。Décret de la Convention nationale, du 5 octobre 1793, l'an second de la République française, une & indivisible, concernant l'ère des français, A Paris, De l'Imprimerie nationale exécutive du Louvre, an II.<sup>e</sup> de la République [1793], 4 p., 25 cm. 【Franklin 16595】
4. 革命の時計の概要図。Rosaz, Sébastien-Louis, Concordance de l'annuaire de la République française, avec le calendrier grégorien, formant 178 tableaux, qui commencement le 22 septembre 1793 (1.<sup>er</sup> vendémiaire an II), et se terminent au 31 décembre 1837 (10 nivôse an XLVI) ... , précédée des lois, décrets, arrêtés, instructions et discours des orateurs du gouvernement ... , A Paris, Chez Brunot-Labbe, [chez] Louis Fantin, [et chez] Lenormant, et a Lyon, chez Yvernault et Cabin, ... , 1810, [4], iv, 232 p., 21 cm 【Franklin 1817】 所収。
5. 共和暦廃止の決議。同書に所収。
6. マラー『隷従の鎖』 標題紙。共和暦1年と表示されている。Marat, Jean Paul, Les chaines de l'esclavage, ouvrage destiné à développer les noirs attentats des princes contre les peuples ; les ressorts secrets, les ruses, les menées, les artifices, les coups d'État

- qu'ils employent pour détruire la liberté, et les scènes sanglantes qui accompagnent le despotisme, Paris, De l'imprimerie de Marat, l'an premier de la République [1792 or 1793], 364 p., 21 cm. 【Menger Fr. 936】
7. マレシャル 『紳士の暦』。[Maréchal, Sylvain], Almanach des honnêtes gens, l'an du premier regne de la raison, pour la présente année, [S.l., s.n., 1788], 24 p., 16 cm. 【貴 A 3844】
  8. 同、3月～4月のページ。
  9. マレシャル 『神に関する道徳詩断片』。[Maréchal, Sylvain], Ad majorem gloriam virtutis, fragmens d'un poeme moral sur Dieu, A Atheopolis [i.e. Paris], [s.n.], l'an premier du regne de la raison, 1781, 91, [5] p., 20 cm. 【貴 J 458】
  10. 自由紀元が記載されている例。『ネッケル氏の見解の反駁』。[Dulaure, Jacques-Antoine], Refutation de l'opinion de M. Necker, relativement au Décret de l'Assemblée nationale, concernant les titres, les noms & les armoiries, par un citoyen du district des Cordeliers, A Paris, Chez Garnéry, libraire, l'an premier de la Liberté [1790], 15, [1] p., 20 cm. 【Menger Fr. 1108 (15)】
  11. Mouillez les cordes, A Paris, Chez Garnéry, libraire, l'an premier de la liberté [1789], 22, [2] p., 20 cm. 【Menger Fr. 2117】
  12. Confédération nationale, ou, Récit exact & circonstancié de tout ce qui s'est passé à Paris, le 14 juillet 1790, a la fédération, avec le recueil de toutes les pieces officielles & authentiques relatives des principales pieces littéraires auxquelles elle a donné lieu ..., A Paris, Chez Garnéry, libraire, l'an second de la Liberté, [1790 ?], [4], 238 p., [5] leaves of plates, 21 cm. 【Franklin 2186】
  13. Bonneville, Nicolas, Appendices de la seconde édition De l'esprit des religions, pour servir a l'entretien, a la propagation des bons principes, et a la confédération universelle des amis de la vérité, 14 juillet (1792), A Paris, A l'imprimerie du Cercle social, l'an 4<sup>e</sup>. de la liberté, [4], 440 p., 21 cm. 【貴 J 70】
  14. Bonneville, Nicolas, De l'esprit des religions, ouvrage promis et nécessaire à la confédération universelle des amis de la vérité, Nouvelle édition, A Paris, A l'imprimerie du Cercle social ... et chez les principaux libraires de l'Europe, 1792, l'an 4 de la liberté, [4], 92, 8, 254 p., 21 cm. 【貴 J 71】
  15. 公文書の例。Diverses lettres des commissaires de l'Assemblée nationale et de ceux du pouvoir exécutif, des 29 août & 2 septembre 1792, l'an quatrième de la liberté & le premier de l'égalité, [Paris], De l'Imprimerie nationale, [1792], 14 p., 22 cm. 【Menger Fr. 1888】
  16. Proclamation, le conseil exécutif provisoire, aux citoyens, & particulièrement à ceux des campagnes, du 10 septembre 1792, l'an 4<sup>e</sup>. de la liberté, 1<sup>er</sup>. de l'égalité, [France, s.n., 1792], 3-6 p., 24 cm. 【Franklin 11986】
  17. Journal de la seconde legislature, de politique et de litterature, faisant suite au Journal du soir, rédigé par Eti. Feuillant, séances du samedi soir 25 et dimanche 26 aout 1792, l'an 4<sup>e</sup> de la liberté, 1<sup>er</sup> de l'égalité, [Paris], De la rue de Chartres, des imprimeries des freres Chaigneau ... , [1792], 4 p., 24 cm. 【Franklin 18929】
  18. Aux pasteurs des villes et des campagnes, 6 novembre, l'an 1<sup>er</sup> de l'égalité & de la

- République, A Tours, De l'imprimerie d'Auguste Vauquer & Lhéritier ... , 1792, 4 p., 27 cm. 【Franklin 12787】
19. クローツ 『世界共和国』。Cloots, Anacharsis, La république universelle, ou, Adresse aux tyrannicides, A Paris, Chez les marchands de nouveautés, l'an quatre de la Rédemption [1793], 196 p., 20 cm. 【貴 J 121】
20. コント 『実証主義者の暦』 Comte Auguste, Calendrier positiviste, ou, Système général de commémoration publique, destiné surtout a la transition finale de la grande République occidentale composée des cinq populations avancées, française, italienne, germanique, britannique et espagnole ... , et publié au nom de la Société positiviste, Paris, A la librairie scientifique-industrielle de L. Mathias ... , avril 1849. 【Franklin 11673】
21. 同書、2月～3月のページ。

[追記]

校正段階に入ってから、標題紙に l'an de justice 1789 との出版年表示のある資料が見つかった。題名は以下の通り。Haro sur la F..... des B..... par Thomas-Guilleaume B.E.R. secrétaire de feu Mons de Jar.... 【貴 A:3837:3】 出版地は Grenoble と表示されており、特徴的な活字が用いられている。内容から見ておそらく革命前夜に出版されたもので、聖職者の特権を攻撃する政治パンフレットのようなもの。なお同じテキストが以下のタイトルでも出版されている。Réclamation d'un citoyen sur l'administration actuelle de la feuille des bénéfices

Franklin 15845

一橋大学 社会科学学術資料センター

120  
Duvivier  
N.º 3.



# D É C R E T S

## D E L A C O N V E N T I O N N A T I O N A L E .

Du 22 Septembre 1792, l'an 1.<sup>er</sup> de la République française.

- 1.<sup>o</sup> *Due des Actes publics.*
- 2.<sup>o</sup> *Changement du Secau des Archives de la République Française, & de tous les Corps administratifs.*
- 3.<sup>o</sup> *Suppression des Remes administratifs.*
- 4.<sup>o</sup> *Incompatibilité des fonctions de Représentant de la Nation, & de toute autre fonction publique.*

**U**N membre demande que l'on date dorénavant les actes: *L'an premier de la république Française.*

Un autre membre propose d'y joindre l'ère en usage, l'an quatrième de la liberté.

Cet amendement est écarté; & il est décrété que tous les actes publics porteront dorénavant la date de *L'an premier de la république Française.*

図版1

Franklin 15891

一橋大学 社会科学学術資料センター

# D É C R E T

D E L A

## C O N V E N T I O N N A T I O N A L E ,

Du 2 Janvier 1793, l'an 2.<sup>e</sup> de la République Française.

### *Relatif à l'ère de la République.*

**L**A C O N V E N T I O N N A T I O N A L E , sur la proposition d'un de ses membres, décrète que la seconde année de la république datera du premier janvier mil sept cent quatre - vingt - treize.

**AU N O M D E L A R É P U B L I Q U E ,** le Convent exécute provisoirement mande & ordonne à tous les Corps administratifs & Tribunaux, que la présente loi ils fassent consigner dans leurs registres, lire, publier & afficher, & exécuter dans leurs départements & ressorts respectifs; en foi de quoi nous y avons apposé notre signature & le sceau de la république. A Paris, le troisieme jour du mois de janvier mil sept cent

図版2

Franklin / 16595  
 一 般 大 学 社 会 科 学 史 教 育 科 セ ン タ ー

DÉCRET  
 N.º 1654

DE LA  
 CONVENTION NATIONALE,

Du 3 Octobre 1793, l'an second de la république Française,  
 une & indivisible,

*Concernant l'Ere des Français.*

LA CONVENTION NATIONALE, après avoir entendu son comité de l'instruction publique, décrète ce qui suit:

ARTICLE PREMIER.

L'ère des Français compte de la fondation de la république, qui a eu lieu le 22 septembre 1792 de l'ère vulgaire, jour où le soleil est arrivé à l'équinoxe vrai d'automne, en enrant dans le figue de la balance à 9 heures 18 minutes 30 secondes du main, pour l'observatoire de Paris.

I I.

L'ère vulgaire est abolie pour les usages civils.

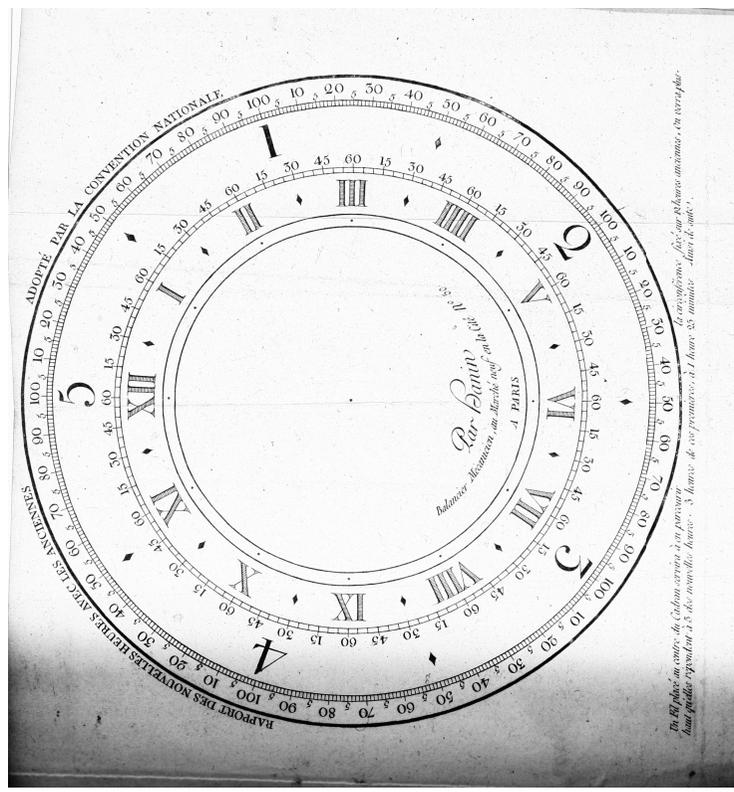
I I I.

Le commencement de chaque année est fixé à minuit, commençant le jour où tombe l'équinoxe vrai d'automne pour l'observatoire de Paris.

I V.

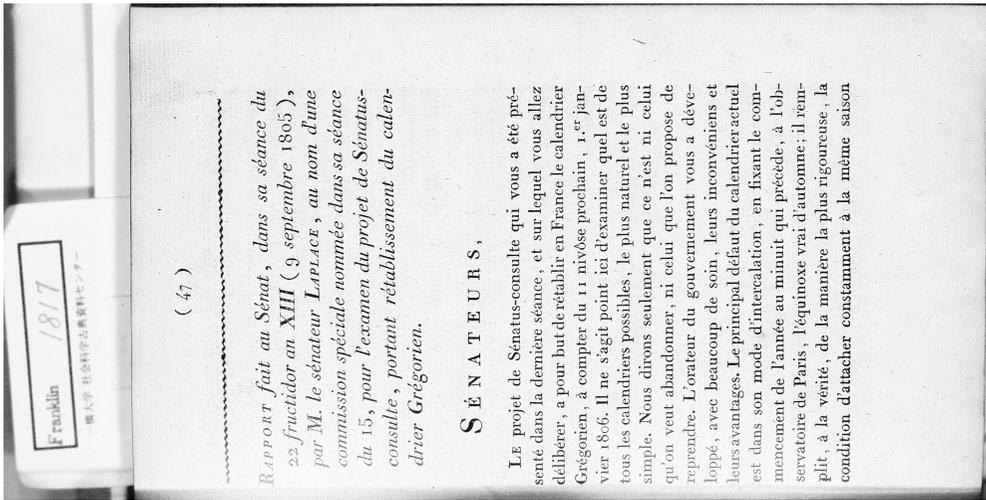
La première année de la république Française a commencé

図版3

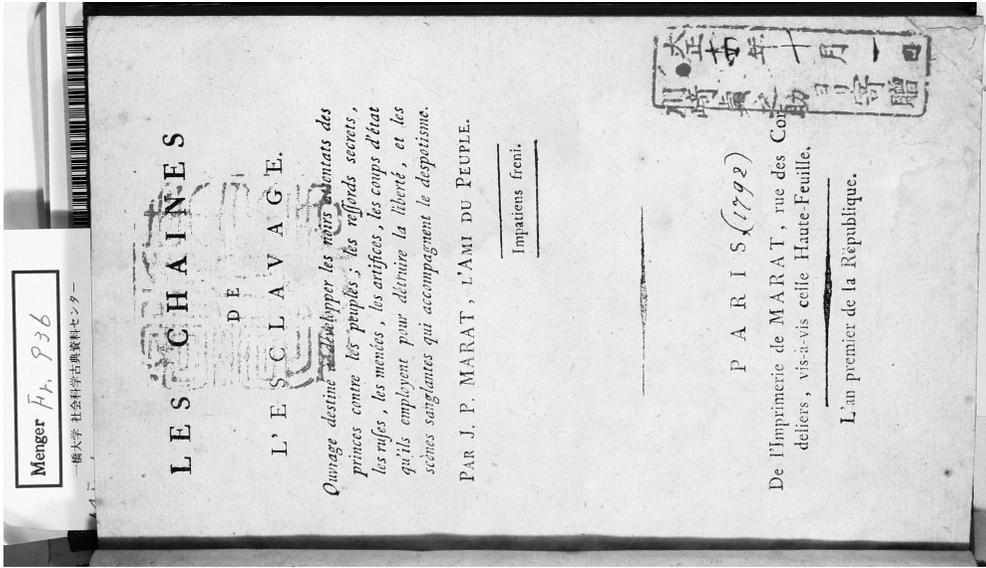


The first in center is the clock as drawn originally in porcelain. The right one is the clock as drawn after the Revolution. The left one is the clock as drawn after the Revolution. The right one is the clock as drawn after the Revolution.

図版4



図版5



図版6

貴 A - 3844

一橋大学 社会科学古典資料センター

311

# ALMANACH

D E S

## HONNÊTES GENS.

*L'an du premier regne de la raison, pour la présente année.*

Dis-moi qui tu hantes, je dirai qui tu es.

Proy.

A

貴

A - 3844

一橋大学 社会科学古典資料センター

( 2 )

### I. MARS ou PRINCEPS.

- 1 Moïse, n.
- 2 Marcial, po. n.
- 3 Sc. Duplex, m.
- 4 Saladin, m.
- 5 Kleist, P. All. m.
- 6 Michel - Ange, n.
- 7 Antonin, m.
- 8 Freret, m.
- 9 Vanierie, n.
- \* 10 Léon, de Vinci, n.
- 11 Taffe, n.
- 12 Boileau, m.
- 13 L'Hôpital, chanc. m.
- 14 Thémistocle, m.
- 15 Burus tue Cécât, n.
- 16 Euripide, m.
- 17 Marc - Aurèle, n.
- 18 Turgot, n.
- 19 Phocion, m.
- \* 20 Le Couvreur, m.
- 21 Toland, m.
- 22 Carnot, m.
- 23 Ariflore, n.
- 24 Ruyter, m.
- 25 Newton, n.
- 26 Woliation, m.
- 27 Chamouillet, m.
- 28 Calot, n.
- 29 P. Segurier, n.
- \* 30 T. Pomponius Alt. m.
- 31 Descartes, n.

( 3 )

### II. AVRIL ou ALTER.

- 1 Bayard, m.
- 2 Harvey, Vinflow, m.
- 3 Jesus - Christ, m.
- 4 Jouvenel, n.
- 5 Hobbes, n.
- 6 Socrate, n.
- 7 Platon, n.
- 8 Cheville, m.
- 9 Bacon, Wolf, m.
- \* 10 Grotius, m. Tindal, m.
- 11 Deslandes, m.
- 12 Robinet, Young, m.
- 13 Mécène, m.
- 14 Handel, m.
- 15 Pindare, Taffe, m.
- 16 J. Caffini, m.
- 17 Proclus, Ozanam, m.
- 18 Lainez, m.
- 19 Christine, m.
- \* 20 M. Cervantes, m.
- 21 Nama, Pompilius, m.
- 22 J. Racine, m.
- 23 Peyronie, m.
- 24 Vincent de Paule, m.
- 25 Louis IX, m.
- 26 Marc - Aurele, m.
- 27 Le P. Eugene, m.
- 28 Shakepéar, m.
- 29 Abbé de St. Pierre, m.
- \* 30 Luvain, Sénèque, m.

A

J-458

一橋大学 社会科学出版資料センター

*AD MAJOREM GLORIAM VIRTUTIS.*

FRAGMENS

*D'UN POEME MORAL*

SUR DIEU.

L'Homme a dit: faisons Dieux qu'il soit à notre image:  
Dieu fut; & l'ouvrier adora son ouvrage.

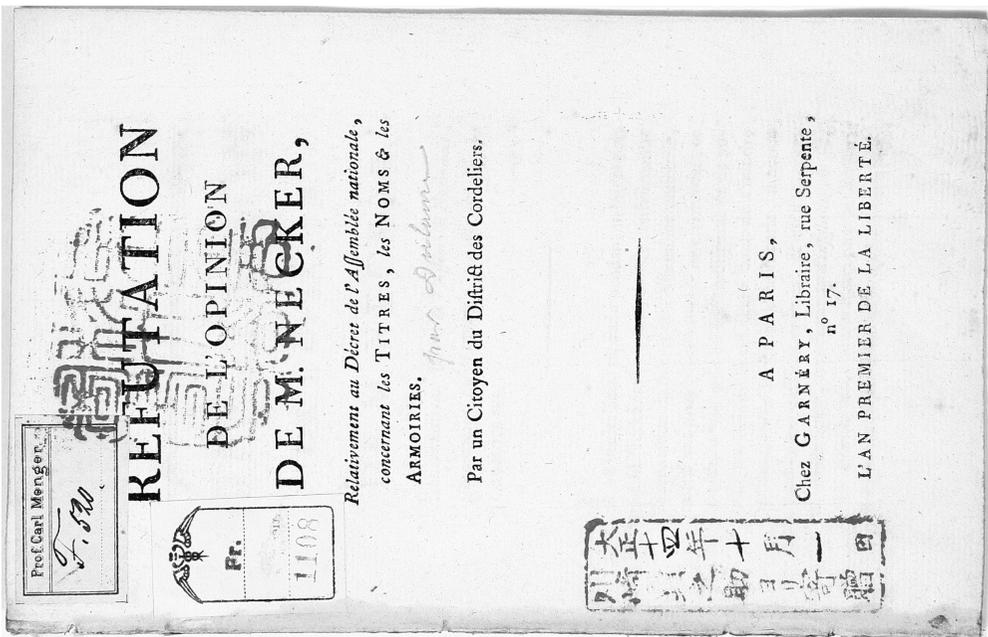


*A ATHEOPOLIS,*

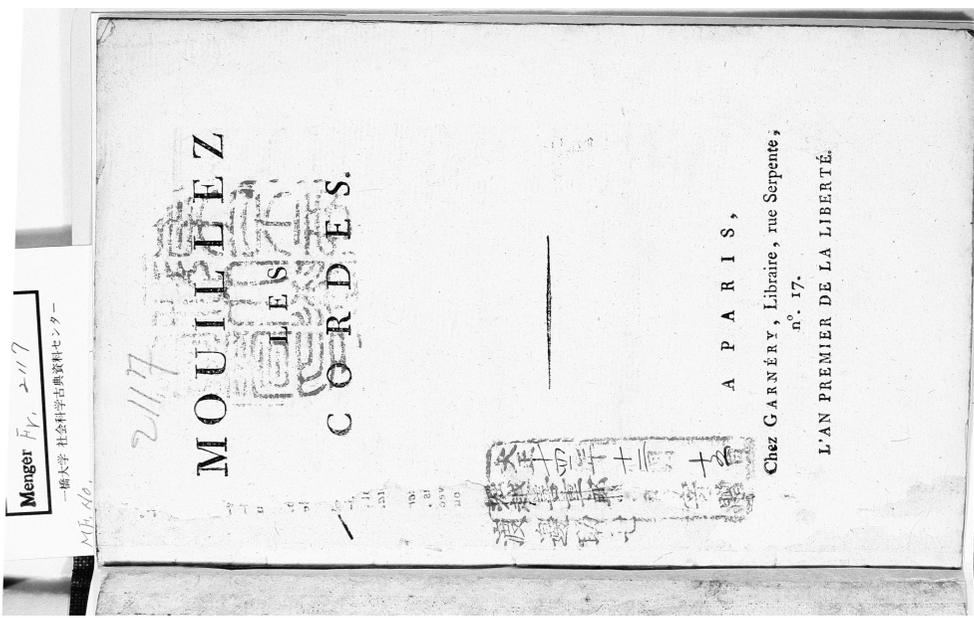
L'An Premier du regne de la Raifon,

1781.

図版9



図版10



図版11

Franklin 2186

早稲大学 社会科学部資料センター

3F-2186

# CONFÉDÉRATION

## NATIONALE,

Ou récit exact & circonstancié de tout ce qui s'est  
passé à Paris, le 14 juillet 1790.

## A LA FÉDÉRATION,

*Avec le recueil de toutes les pièces officielles & au-  
thentiques relatives des principales Pièces littéraires  
auxquelles elle a donné lieu, & le détail de toutes  
les circonstances qui ont précédé, accompagné & suivi  
cette auguste cérémonie.*

Avec cinq gravures.

A PARIS,

Chez GARNÉRY, libraire, rue Serpente, n<sup>o</sup>. 171

L'AN SECONDE DE LA LIBERTÉ.



K-D

図版12

④ J-70

一橋大学 社会科学部図書センター

APPENDICES  
DE LA SECONDE ÉDITION  
DE L'ESPRIT

DES RELIGIONS;  
POUR SERVIR  
A L'ENTRETIEN, A LA PROPAGATION  
DES BONS PRINCIPES,



ET  
A LA CONFÉDÉRATION UNIVERSELLE  
DES AMIS DE LA VÉRITÉ.

14 JUILLET  
(1792)

A PARIS,

De l'Imprimerie du Cercle Social, rue du  
Théâtre-François, n.º 4.  
L'AN 4.º DE LA LIBERTÉ.

図版13

④ J-71

一橋大学 社会科学部図書センター

MF-753 (2)

DE L'ESPRIT  
DES

RELIGIONS,  
PAR NICOLAS BONNEVILLE.  
OUVRAGE PROMIS ET NÉCESSAIRE  
A LA CONFÉDÉRATION UNIVERSELLE  
DES AMIS DE LA VÉRITÉ.

Francs et Frères, il s'agit de la Liberté!  
*Beauté de Fer.*



NOUVELLE ÉDITION.

A PARIS,

A l'Imprimerie du CERCLE SOCIAL, rue du  
Théâtre François, N.º 4.

Et chez les principaux Libraires de l'Europe.

(1792.)  
L'an 4 de la Liberté.

図版14

Menger Fr. 1888  
一橋大学 社会科学古書資料センター  
M.H. 11

## DIVERSES LETTRES

DES Commissaires de l'Assemblée  
Nationale et de ceux du Pouvoir  
Exécutif,

DES 29 Août & 2 Septembre 1792, dans quatrième de  
l'Assemblée le premier de l'ordre;

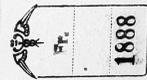
IMPRIMÉES PAR ORDRE DE L'ASSEMBLÉE NATIONALE.

Lettre des Commissaires de l'Assemblée nationale à  
l'armée du centre.

Metz, le 29 août 1792.

MESSIEURS,

C'EST parce que nous connoissons les ressources  
immenses de la nation française, & l'énergie des ci-  
toyens, que nous avons cru ne devoir rien vous dif-  
Militaire, n° 112.



図版15

Franklin 11986  
一橋大学 社会科学古書資料センター

3



## PROCLAMATION.

Le Conseil exécutif provisoire, aux Citoyens, &  
particulièrement à ceux des campagnes.

Du 10 Septembre 1792, l'an 4.<sup>e</sup> de la Liberté,  
1.<sup>er</sup> de l'Égalité.

**F**US avançant sur notre territoire, l'ennemi s'empare de  
nos caisses; il désarme les Gardes nationales de nos vil-  
lages, il fait sur-tout passer sur ses derrières & jusque  
dans le Luxembourg, le produit de nos récoltes. Ses  
progrès, sans doute, lui seront incessamment funestes,  
& chaque pas qu'il fait dans l'intérieur de la France  
l'approche du lieu fatal où ses armées doivent périr. Mais  
cependant, cet enlèvement successif & combiné de nos  
subsistances diminue nos ressources, augmente les siennes,  
lui prépare, même en cas de non-succès, de nouveaux  
moyens d'invasion ou de vengeance, & dispose d'avance  
contre nous, à nos propres dépens, de nouvelles sources  
de troubles, d'inquiétudes & de désordres.

Cette manœuvre est adroite & perfide; mais il ne tient  
qu'à vous d'en empêcher le danger. Ce n'est point une

図版16



④ J-121  
一橋大学 社会科学資料センター

LA RÉPUBLIQUE  
UNIVERSELLE

OU

ADRESSE

AUX TYRANNICIDES,

PAR ANACHARSIS CLOOTS,

CRATEUR DU GENRE HUMAIN.

PARIS

1793

PARIS,

CHEZ LES MARCHANDS DE NOUVEAUTÉ,

L'an quatre de la Régénération.

1793

図版19

**CULTE SYSTEMATIQUE DE L'HUMANITE.**

L'AMOUR POUR PRINCES, | L'ORDRE POUR BASE,  
ET LE PROGRES POUR BUT.

**CALENDRIER POSITIVISTE,**

OU  
**SYSTEME GENERAL**

**DE COMMÉMORATION PUBLIQUE,**

REVUE REVUE  
A LA TRANSITION FINALE DE LA GRANDE PERIODE ROCHERVALE  
COMPOSEE DES CINQ POPULATIONS AVANCEES,  
FRANCAISE, ITALIENNE, GERMANIQUE, HEBREUQUE, ET ESPAGNOLE,  
TOUTES SOUS LE DROIT DE LA CIVILISATION.

COMPOSE  
**PAR ALBERT COMTE.**

Auteur du *Système de philosophie positive*,

ET PUBLIE AU NOM DE LA SOCIÉTÉ POSITIVISTE.

Vivre pour servir.

**PARIS.**

A LA LIBRAIRIE SCIENTIFIQUE-INDUSTRIELLE DE L. MATHIAS,  
15, QUAI MALAQUAIS.

Avril 1849.  
Soixante-cinquième année de la grande révolution.

24

CALENDRIER POSITIVISTE.

FÉVRIER,

LA FÊTE ANCIENNE.

**HOMÈRE.**

- 1 — Lundi. . . . . Hésiode.
- 2 — Mardi. . . . . Tyrée. . . . . *Sypho.*
- 3 — Mercredi. . . . . Anacréon.
- 4 — Jeudi. . . . . Pindare.
- 5 — Vendredi. . . . . Sophocle. . . . . *Euripide.*
- 6 — Samedi. . . . . Théocrite. . . . . *Longus.*
- 7 — DIMANCHE. . . . . ESCOFFIER.

- 8 — Lundi. . . . . Sophas.
- 9 — Mardi. . . . . Zeuxis.
- 10 — Mercredi. . . . . Ictinus.
- 11 — Jeudi. . . . . Praxitèle.
- 12 — Vendredi. . . . . Lysippe.
- 13 — Samedi. . . . . Apelles.
- 14 — DIMANCHE. . . . . PHIDIAS.

- 15 — Lundi. . . . . Ésope. . . . . *Pilpai.*
- 16 — Mardi. . . . . Aristophane.
- 17 — Mercredi. . . . . Pérence. . . . . *Méandre.*
- 18 — Jeudi. . . . . Platon.
- 19 — Vendredi. . . . . Lucien.
- 20 — Samedi. . . . . PLAUTUS.
- 21 — DIMANCHE. . . . . ÉMILIUS.

- 22 — Lundi. . . . . Ennius.
- 23 — Mardi. . . . . Lucrèce.
- 24 — Mercredi. . . . . Horace.
- 25 — Jeudi. . . . . Tibulle.
- 26 — Vendredi. . . . . Ovide.
- 27 — Samedi. . . . . Lucain.
- 28 — DIMANCHE. . . . . VIRGILE.

25

CALENDRIER POSITIVISTE.

MARS,

LA FÊTE MODERNE.

**ARISTOTE.**

- 1 — Lundi. . . . . Anaximandre.
- 2 — Mardi. . . . . Anaximène.
- 3 — Mercredi. . . . . Héraclite.
- 4 — Jeudi. . . . . Anaxagore.
- 5 — Vendredi. . . . . Démocrite.
- 6 — Samedi. . . . . Hérodoté.
- 7 — DIMANCHE. . . . . THALES.

- 8 — Lundi. . . . . Solon.
- 9 — Mardi. . . . . Xérophane.
- 10 — Mercredi. . . . . Empédocle.
- 11 — Jeudi. . . . . Anaxagoras.
- 12 — Vendredi. . . . . Apollonius-de-Tyane.
- 13 — Samedi. . . . . PYTHAGORE.
- 14 — DIMANCHE. . . . .

- 15 — Lundi. . . . . Aristippe.
- 16 — Mardi. . . . . Antisthènes.
- 17 — Mercredi. . . . . Zénon.
- 18 — Jeudi. . . . . Cléon.
- 19 — Vendredi. . . . . Épictète. . . . . *Épino-le-Jeune.*
- 20 — Samedi. . . . . Tacite. . . . . *Arrien.*
- 21 — DIMANCHE. . . . . SOCRATE.

- 22 — Lundi. . . . . Xénocrate.
- 23 — Mardi. . . . . Philon-de-Alexandrie.
- 24 — Mercredi. . . . . Saint-Jean l'Évangéliste.
- 25 — Jeudi. . . . . Saint-Justin.
- 26 — Vendredi. . . . . Saint-Étienne.
- 27 — Samedi. . . . . Origène. . . . . *Tradition.*
- 28 — DIMANCHE. . . . . PLATON.